

グラビア

視力低下の自覚が乏しかった重症な糖尿病網膜症の1例

志和 利彦 鈴木 久晴 森瀬 景子 柴田 桂子

日本医科大学眼科学

A Case of Severe Diabetic Retinopathy without
Symptom of Visual Impairment

Toshihiko Shiwa, Hisaharu Suzuki, Keiko Morise and Keiko Shibata

Department of Ophthalmology, Nippon Medical School



図 1

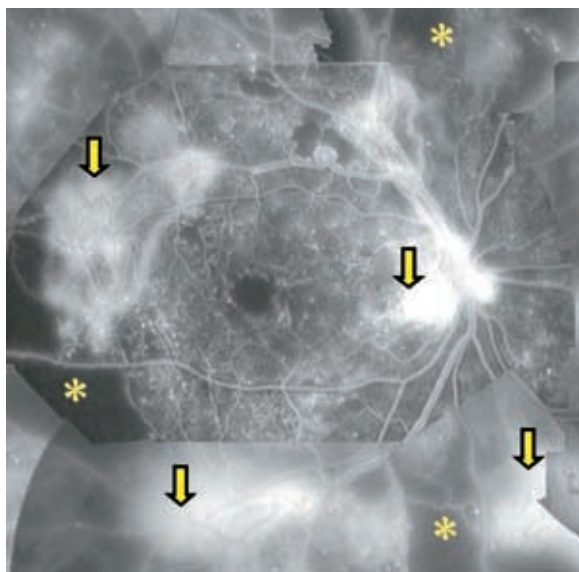


図 2

解説 糖尿病網膜症が重症であっても、黄斑部が浮腫、出血や増殖膜の直接的な影響を受けない限り視力は良好であり、網膜症の重症度と視力障害は必ずしも一致しない。このため糖尿病を指摘されてもなかなか眼科を受診せず、視力が低下してはじめて眼科を受診する例が多い。この症例は52歳の女性である。6年前から健康診断で糖尿病を指摘されていたが放置していた。1日前から突然左眼の視力が低下したと訴え平成16年9月、当科を受診した。初診時の視力は右眼(0.6)、左眼(0.2)で、患者の自覚とは異なり両眼とも視力が低下していた。眼底は両眼とも重症な増殖性糖尿病網膜症であった。増殖性の網膜症の場合、糖尿病歴が通常は15年以上といわれており、単純型、あるいは前増殖型の時期に適切な眼科的治療を行うことで進行を予防することが可能である。患者が視力障害を訴えない場合でも、眼科受診を勧めることが大切であることを示唆する1例である。

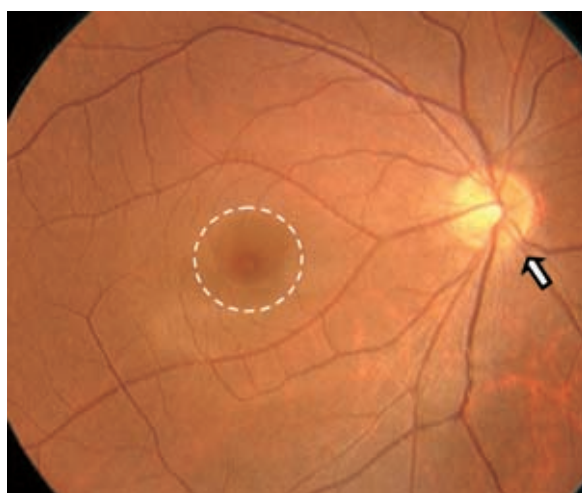


図 3

連絡先：志和利彦 〒113 8603 東京都文京区千駄木1-1-5 日本医科大学眼科学教室

E-mail: tshiwa@nms.ac.jp

Journal Website (<http://www.nms.ac.jp/jmanms/>)

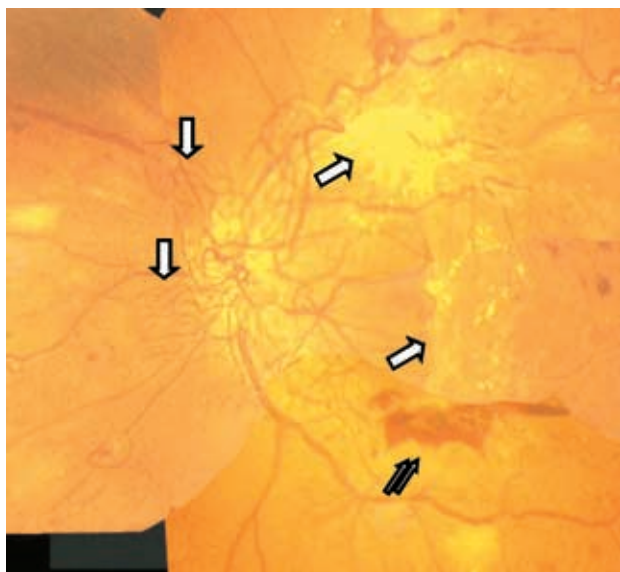


図 4

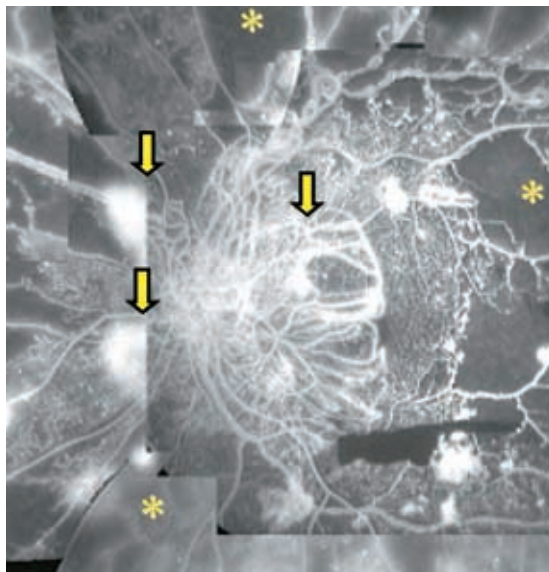


図 5

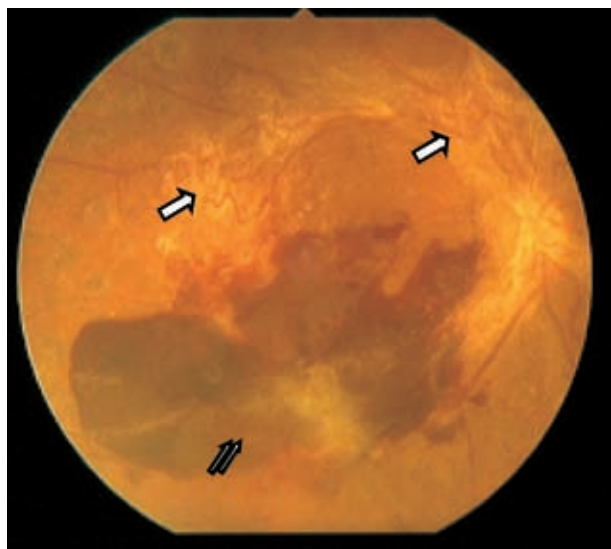


図 6

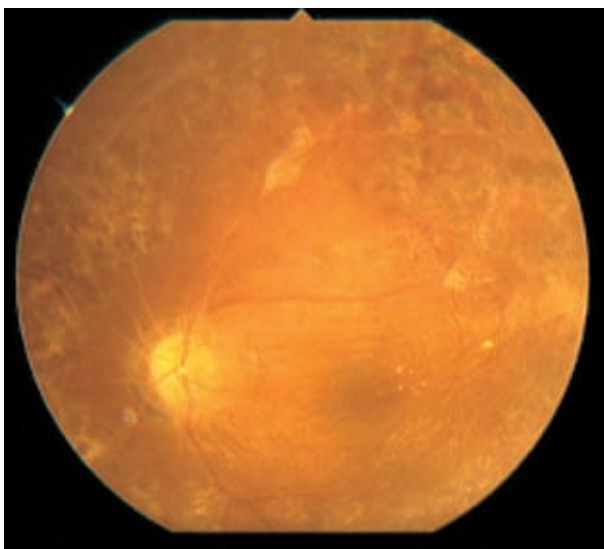


図 7

図 1 初診時の右眼眼底。網膜出血，硬性白斑，軟性白斑，静脈のループ形成，視神経乳頭上の新生血管，花冠状新生血管を認める。黄斑部の中心窩には浮腫は見えない（↓：新生血管，↯：ループ形成，↷：軟性白斑）。
図 2 初診時の右眼蛍光眼底撮影所見。新生血管から蛍光色素の血管外漏出が著しい。中間周辺部は無灌流領域が全方向に存在している（↓：新生血管からの蛍光漏出，*：無灌流領域）。
図 3 正常な右眼の眼底写真（白い破線に囲まれた領域が黄斑部，△：視神経乳頭）。
図 4 初診時の左眼眼底。網膜出血，硬性白斑，軟性白斑，静脈のループ形成，視神経乳頭から四方に伸びる新生血管網が右眼と同様に存在する。さらに，下方には網膜前出血，上方から黄斑部にかけて増殖膜も生じている。増殖膜は黄斑部を覆い隠すように発生しており，視力低下の原因となっている（↓：新生血管，↯：網膜前出血，↷：増殖膜）。
図 5 初診時の左眼蛍光眼底撮影所見。右眼と同様に，新生血管から蛍光色素の血管外漏出が著しい。中間周辺部は無灌流領域が全方向に存在している。静脈の数珠状の拡張蛇行も著しく，血管壁の透過性も亢進している（↓：新生血管からの蛍光漏出，*：無灌流領域）。
図 6 6カ月後の右眼眼底。レーザー治療を行ったが，視神経乳頭から上下血管アーケードにひろがる新生血管と増殖膜が進行増悪した。黄斑部を覆うように硝子体出血が出現し，視力は（0.08）に低下しており，患者自身も視力低下を自覚している。今後硝子体手術を行う予定である（↷：新生血管をともなう増殖膜，↯：硝子体出血）。
図 7 硝子体手術を行い2カ月経過した左眼の眼底所見である。黄斑部を覆い隠していた新生血管と線維性増殖膜はきれいに除去されており，視力も（0.5）まで改善した。